

三重県経済の動向

No.489

HRI(株)百五総合研究所 地域調査部（谷ノ上・前田）

【現在の景気】：緩やかに回復している。個人消費は一部に弱い動きがみられるものの、持ち直しており、生産は回復、雇用は高水準で推移。

【当面の見通し】：緩やかな回復が続く。生産の回復、設備投資のさらなる持ち直しが期待されるなか、雇用は高水準を維持し、所得環境の改善が期待される。

個人消費：一部で弱い動きも持ち直し

4月の百貨店・スーパー販売額（既存店、速報）は前年比2.3%減で21か月連続の減少。4月のコンビニ販売額（速報）は2.4%増で3か月連続の増加。家電大型専門店販売額（速報）は3.3%減で3か月連続の減少。ドラッグストア販売額（速報）は8.4%増で37か月連続の増加。5月の乗用車販売台数（普通+小型+軽）は3.1%減で2か月ぶりの減少。軽（+0.0%）は前年比ほぼ横ばい、普通（△8.0%）は2か月連続の減少、小型（△1.6%）は2か月ぶりの減少。4月の家計消費支出（津市・二人以上の世帯）は、4.3%減で4か月連続の減少、3か月後方移動平均も4か月連続の減少。

住宅建築：足踏み

4月の住宅着工戸数は、前年比1.9%増で5か月ぶりの増加。3か月後方移動平均は11.0%の減少。持家（△1.4%）と分譲（△49.8%）が2か月ぶりに減少したものの、貸家（+49.8%）が5か月ぶりの増加。床面積（△5.0%）は5か月連続の減少。

設備投資：持ち直し

4月の建築物着工床面積（非居住用）は、前年比293.1%増で2か月連続の増加、3か月後方移動平均では3か月連続の減少。5月の貨物自動車販売（普通+小型+軽）は、前年比1.2%増と3か月連続の増加。3か月後方移動平均では5か月連続の増加。普通貨物（△9.4%）と小型貨物（△2.2%）は2か月ぶりに減少したものの、軽貨物（+5.4%）は2か月ぶりの増加。

公共工事：横ばい

5月の公共工事請負件数は前年比20.1%増で8か月連続の増加。請負額は、93.8%増で2か月連続の増加。請負額増加の要因は、中部地方整備局（国）において「東海環状」、「国道23号」関連の大型工事があった影響、四日市市（市町）において「中央緑地新体育館」関連、南伊勢町（市町）において「南伊勢病院」関連の大型工事があった影響等による。

輸出入：輸出は一進一退／輸入は上向き傾向

4月の県内2港（四日市港（尾鷲通関分含む）+津港）の通関輸出額（速報）は、前年比3.1%減で3か月連続の減少。3か月後方移動平均では6か月連続の減少。主要港である四日市港は3.1%減で3か月連続の減少。品目別では石油製品、鉱物性タール及び粗製薬品などが増加したものの、有機化合物、科学光学機器、荷役機械などが減少。県内2港の通関輸入額は、12.8%増と2か月ぶりの増加。

生産活動：回復

3月の鉱工業生産指数（季調済）は138.0と前月比（△0.1%）では2か月ぶりの低下、原指数は153.5と前年比（+9.3%）では12か月連続の上昇。業種別に前月比をみると、電子部品・デバイス、生産用機械、情報通信機械などで上昇したが、食料品、金属製品、化学工業などが低下。在庫指数（季調済）は121.9で、前月比11.9%上昇と3か月連続の上昇。

雇用情勢：高水準続く

4月の有効求人倍率（季調済）は1.73倍で、前月比0.02ポイント低下したものの、59か月連続で1倍を超え、全国を大きく上回って推移。新規求人倍率（季調済）は2.27倍で、前月比0.22ポイント低下。新規求人数（原数値）を産業別にみると、建設業、宿泊業、飲食サービス業などは前年比減少したが、食料品、輸送用機械器具、電気機械器具などの製造業、運輸業、郵便業、卸売業、小売業、医療、福祉、サービス業（他に分類されないもの）などは増加。正社員有効求人倍率（原数値）は1.04倍（前年差+0.13ポイント）で前年を上回って推移し、10か月連続で1倍を超えた。

（トピックス）

- ・ 株村田製作所（京都府）は、「中勢北部サイエンスシティ」（津市）に進出している子会社の株伊勢村田製作所の新たな生産棟の建設を発表。スマートフォンの普及による需要拡大を背景に、主力商品である電子部品等の生産能力増大が目的。投資額（建物のみ）は約40億円。2018年6月着工、19年4月竣工予定。
- ・ 三重県の首都圏営業拠点「三重テラス」（東京都）の来館者数が、2013年のオープン以来、300万人を突破。伊勢志摩サミットが開催された16年度をピークに17年度はやや減少したが、ショップ、レストラン、イベントスペースにおいて三重の魅力や季節行事・イベントに対応した旬の情報を発信し、三重への誘客や販路拡大につながる取組を展開している。